

## 令和7年度第1回奈良市立図書館協議会会議録

開催日時	令和8年3月3日（火）午前10時30分から午後12時30分まで		
開催場所	奈良市立西部図書館3階 多目的室		
出席者	委員	徳永加代会長、西浦富美子副会長、五十嵐和弘委員、中西弘樹委員、中川里美委員、田畑陽子委員、橋本幸子委員、小嶋智美委員【計8人出席】	
	事務局	森西美也子中央図書館長・川井健司北部図書館長・池田明年西部図書館長・森田美里中央図書館主査・呉服淳二郎北部図書館主任・村田直史中央図書館主任・水野幸子中央図書館主務・永崎恵子西部図書館司書	
開催形態	公開（傍聴人0人）	担当課	教育部 中央図書館
議題 又は 案件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和6年度事業報告について</li> <li>2 令和7年度事業計画進捗状況について</li> <li>3 令和8年度事業計画について</li> <li>4 その他、質疑応答・意見交換等</li> </ol>		
決定又は取り纏め事項	五十嵐和弘委員、中川里美委員を署名委員に指名した。		

### 議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等

#### 議題1 令和6年度事業報告について

＜事務局より説明＞

令和6年度の主要な事業実績を報告。

・貸出・来館状況について、図書の貸出冊数は前年度（令和5年度）を下回る傾向にあるが、館内利用者は約2.5万人増加（約58.7万人）。これは、従来の「資料提供サービス」から「空間提供サービス」へのシフトを反映している。また、アウトリーチサービスである図書受取ロッカー、電子図書館、移動図書館、図書郵送貸出サービスの利用が定着している。ほかにも、貸出文庫や、各館でのイベント（おはなし会、ボランティア養成講座等）を通じた地域交流を促進し、地域連携を行っている。

#### 議題2 令和7年度事業計画進捗状況について

＜事務局より説明＞

今年度の取り組み状況を報告。

・図書受取ロッカーの拡充として、JR奈良駅、イオンモール奈良登美ヶ丘、近鉄富雄駅の3箇所に新設。24時間利用可能（一部除く）で、通勤・通学者の利便性が向上し、予

約待ちが出るほど盛況している。

- ・10月よりブックスタート事業を本格的に実施。新生児（約2,000人対象）へ絵本と読書体験を届ける。現在約400名に配布済みである。
- ・中央図書館では、夏季の空調故障により約1ヶ月間休館した。その間、図書受取ロッカーや電子図書館でのサービスを継続し、他館への利用誘導を行った。
- ・移動図書館の活用として、幼保こども園への巡回を開始。読み聞かせや、子どもたちが自分で本を選ぶ体験（絵本バス）を実施している。
- ・学校図書館支援事業では、市立小中学校63校への全校訪問を実施。「学校図書館支援司書」による環境整備（ディスプレイやレイアウトの改善）、選書支援、利用教育オリエンテーションを実施したほか、学校からの団体貸出申請の電子化や、学校所蔵本の書誌情報入力のルール化を推進した。

### 議題3 令和8年度事業計画について

<事務局より説明>

次年度の重点施策について説明。

- ・会計年度任用職員の中にフルタイムの「主任司書」を新設。専門性の高い司書業務の安定と継続を図る。また、中央図書館に「館外サービス係」を新設。図書受取ロッカー、郵送貸出サービス、電子図書館、移動図書館を一括管理する。
- ・大和西大寺駅に図書受取ロッカーを増設、また新規1箇所の設置を検討している。
- ・市民意見（「本が古い」等）を反映し、各館300万円の図書リフレッシュ予算を計上している。
- ・中央図書館の会議室を改修し、グループで会話しながら勉強できる「わいわい学習室」の設置を検討している。
- ・西部図書館では、高架水槽の更新や館内のLED化、手すりの設置を行う予定である。

### 議題 その他、質疑応答・意見交換等

・月に1回でもプロの司書が学校へ来校し、専門的な視点で棚の整理やディスプレイを整えてもらうことは、子供たちの読書意欲に直結するため助かっているが、奈良市内の小中学校63校に対し、支援司書10名という体制は、1校あたりの訪問回数が少なすぎると意見があった。

・学校図書館の活性化は校長のリーダーシップにかかっており、公共図書館とも連携した研修会での成果を土台に、次年度以降はさらに校長間のネットワークや発信力を強め、組織的な環境向上を一段と加速させていきたいとの意見があった。

・「わいわい学習室」について。

公民館自習室の現状や「わいわい学習室」のニーズに関する問いに対し、事務局が多様な学習環境の整備と中高生支援および地域連携の強化を回答したことで、公民館側としても今後の協力・連携を検討していく旨の意見があった。

最近では商業施設のフードコートなどでグループ学習をする生徒も多い。図書館が「私語禁止」だけでなく、公共施設として、中高生が安心して集まれる場所を提供することは、単なる学習支援以上の「居場所支援」としての価値があるとの意見があった。

・幼保・こども園への移動図書館（絵本バス）だけでなく、「子育て広場」などへ司書を派遣することで、さらに低年齢の子を持つ保護者へ直接アプローチすることができるとの意見があった。

資 料

【資料1】 令和6年度事業報告について

【資料2】 令和7年度事業計画進捗状況について

【資料3】 学校図書館支援事業について

【資料4】 令和8年度事業計画について